

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○:イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。(×:カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 教会教育部

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教師ノート

週課	第一年 第七課 第一週
単元	創世記・2
テーマ	罪の結果と救い
タイトル	人間と罪・2
テキスト	創世記 3:7-24
参照箇所	ローマ 5:12,18、16::20、エペソ 2:3
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ローマ 3:23-24
AG 日曜学校教案参照箇所	小上 3 巻 3 題 2 課、中 2 巻 1 題 1 課
メモ(情報・例話など)	<p>今月のメッセージは、ともすれば罪と裁きの内容に偏ってしまいます。もちろん神さまが罪を嫌われるということや、罪の結果として神さまの怒りを受けることは強調されなければなりません。しかし、同時に神さまの愛と救いの計画について語っていくことが大切です。神さまは罪を嫌われますが、人を愛されます。暗いメッセージになったり、怖い神さまのイメージだけが印象に残ったりしないように心がけましょう。バランスのとれた、希望をあたえるメッセージとなるように準備しましょう。</p>
□導入	<p>興味を起す質問をしましょう。</p>
例1:	<p>食べてはいけない実を食べてしまったアダムとエバ。このことが神さまにバレない…ハズがない！彼らはその後どうしたのでしょうか？神さまは怒っているのかな？それとも…？</p>
例2:	<p>あなたがもし、絶対に触ってはいけないと言われていたお父さんの大切な腕時計を触って壊してしまったら…お父さんが仕事から帰って来るまで、どんな気持ちで待つのでしょうか？</p>
□ポイント1 罪を犯したアダムとエバは、神さまから隠れました(7～13節)	<p>神さまに見つからないように、ふたりは木のかげに隠れていました。(ヘビが言ったとおり、ふたりの目は開かれました。とは言っても、単に自分たちが裸で恥ずかしいということが分かっただけです)。それまで人は、全く聖く責められるところがない安心感をもっていたので、いつでも神さまとの交わりを喜ぶことができたのに…しかし、<u>罪を犯した後は、罪悪感と不安から、神さまの前に出られなくなってしまったのです。</u>神さまは全てご存知でありながら、「食べたのか？」と質問されました。人が正直に悔い改めることを望み、チャンスを与えたのです。このときアダムは素直に自分から「ゴメンなさい」と言ったのでしょうか？いいえ、残念ながら、アダムは、エバの方が自分よりもっと悪い！と主張し、自分の責任を最小限にしようしました。そればかりか、神さまがそんな女を与えたのが悪いのだと、神さまのせいになろうとまでしています。同様に、エバもヘビのせいになろうと必死で言い訳をしています。</p>
☞「園を歩き回られる神」は、エデンの園ではいつも神さまが臨在しておられたと言う意味ですので、神さまが歩いて探し回っていたということではありません。神さまはアダムがどこにいるかご存知でした。	
□ポイント2 神さまは罰をお与えになりました(14～24節)	<p>ヘビ・女・男の刑罰が宣告されます。教師は内容を理解しておきましょう。子どもたちには、これを詳しく説明するより、アダムの罪によって人類に罪が入ったこと(原罪)を分かりやすく説明することが重要です。</p>

へび：他の生き物より特に嫌われる存在となりました。「ちりを食べる」はみじめな敵・敗北者の姿をあらわすのでしょうか（詩72:9、イザヤ49:23）。ここでへびへの刑罰は、象徴的にサタンに対するものと考えられます。悪魔はイエスさまに敵対して噛みつきますが、かかとかみつくだけで、それを踏み砕くイエスさまの力には絶対に勝てません。

女：本来祝福されるべき出産が、女性にとっては苦痛を伴うものとなりました。また本来女性は男性の助け手であり、男性は女性と相補い合っ一つの存在であるかのようでした。しかしその男女の間の完全な調和が失われ、支配と隷属の関係になってしまいました。（実用聖書注解・いのちのことば社より）

男：男はそれまで、彼のために造られたかのようなエデンの園で、全く心配事のない生活を楽しんでいましたが、食物のために労苦を強いられることになりました。さらに肉体の死も定められました。

アダムが罪を犯してしまったので、全ての人間は神さまに従わない罪をもつものとして生まれるようになりました。（そのことを理解するためにメッセンジャーは、ローマ5:12～18を必ず読んでください）。ひとりの人によって全ての人類が罪人となったのです。

子どもたちは、アダムが犯した罪のせいで自分が罪に定められるのはおかしいと考えるかもしれませんが。しかし実際に子どもたち自身も、自分の内に、みことばに従えない心（悪いとわかっていてもウソをついてしまう、親に従えない、等）があるのを実感しているはずです。教師自身にもそのような罪の心があることを正直に開示しながら、子どもたちも現在を自分の問題として受け止められるようにお話ししましょう。

㊦「アダムの罪によって、人間は根源的に腐敗し、神さまに従わず悪に傾く性質をもつ」というような事実を子どもに伝えるのが難しいと感じるかもしれません。人間の性質はもっと良質だと考えたくなるかもしれませんが。しかし、そのような考えは、救いの恵みの完全さを小さくしてしまうのではないのでしょうか。神さまは、その哀れみと忍耐に満ちた大きな愛で全人類の罪を完全に覆ってくださったのです。キリストの十字架をもってこの原罪の問題を完全に解決してくださったのです。この救いの充分で完全な有効性を大胆に語るため、救われなければならない理由（すなわち原罪）について、明確に伝えましょう。

㊦ケルビムは天的存在の象徴で、一般に手足を持つ有翼の像として表現されます（新聖書辞典・いのちのことば社より）。炎の剣に関して詳細は不明。どちらもエデンの入り口を守るために置かれました。

□ポイント3 神さまは救いの計画を備えてくださいました（15, 22節）

暗唱聖句を読み上げます

私たちはみな罪人です。罪人は、みな滅びなければなりません。天国で永遠に生きることができないのです（罪の報酬は死）。ですから、イエスさまは、私たちがひとりも滅びないように、私たちの代わりに死んでくださったのです。そのおかげで、私たちは滅びることなく、天国で永遠に生きるいのちをいただくことができるのです。人間はだれでもみんな罪人ですが、だれでもみんなイエスさまを信じれば救われるのです。「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちが神を偽り者とするのです」（ヨハネ1:8～9）。初めの罪によって、私たちの心に入ってしまった罪（神さまに従わない心）を言い表し、神さまに義と認めteいただきましょう。

イエスさまの十字架を、真心込めて大胆に語りましょう。十分に祈って備えることが大切です。神さまは人間に罰を与え追放しただけでなく、救いの道を備えてくださいました。15節はイエスさまについての初めの予言であるといわれ、「原福音」とも呼ばれています。

㊦「義と認められる」とは、神さまの前に正しいと認められ、問題なしのOKと受け入れられることです。

㊦ここでは「罪＝神さまに従わない心」としてしています。それは、ウソをつくことや、ケンカをすることのような「罪の表れ」の部分だけでなく、もっと根本的な罪を強調するためです。原罪をもつ自分の心をしっかり見つめるように導きましょう。

□結論 アダムの罪により、人間は罪をもつようになりましたが、神さまは全てのの人に救いの計画を備えてくださいました

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

今日神さまにごめんなさいと言えた人の罪は完全にゆるされ、永遠の命が与えられました。これからは、自己中心（自分のワガママに従う）でなく神さま中心（神さまに従う）で生きていこう。あなたの身代わりに十字架にかかってくださったイエスさまをもう悲しませないでねっ！

教師ノート

週課	第一年 第七課 第二週
単元	創世記・2
テーマ	神のあわれみ
タイトル	カインとアベル
テキスト	創世記 4:1-16
参照箇所	ヘブル 11:4
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	詩篇 51:17 or 78:38
AG 日曜学校教案参照箇所	小上 1 巻 1 題 3 課
メモ(情報・例話など)	<p>先週の楽園追放に続き、今週は殺人のお話ですので、ともすれば、暗い印象や怖いイメージのメッセージになってしまいます。神さまが罪を嫌われることは強調しつつ、同時に神さまの愛と救いの計画について語っていくことが大切です。神さまは罪を嫌われますが、人を愛されます。バランスのとれた内容を心がけ、希望をあたえるメッセージとなるように準備しましょう。</p>
□導入	<p>ニュースでは毎日のように悲しい殺人事件のことを聞きます。今日は世界で初めに起こった殺人事件のお話です。</p>
□ポイント1 神さまは私たちの心を見られます	<p>(1～5a節)なぜ神さまは、アベルのささげものにだけ「目を留められた」のでしょうか？(メッセンジャーが答えを言う前に、子どもたちといっしょに自由に想像してみましょう。)</p> <p>古代においても現代においても最も一般的な解釈は、兄弟の礼拝の心の姿勢の違いに注目するものです。カインが作物の中から単にいくつかを持ってきてささげたのに対して、アベルは「羊の初子の中から、それも最良のもの」を持ってきました。カインとアベルの違いは、神さまを礼拝する心・信仰姿勢の違いであり、それがささげものに表れたのです(ヘブル11:4)。私たちが礼拝するときも、神さまは私たちの心をごらんになります。その違いは神さまだけに分かるものです。外側を立派に見せるのではなく、内側がいつも神さまによるこばれるものであるように礼拝を(奉仕・献金も)ささげましょう。</p>
☞	<p>確かに、アベルを選ばれた理由は明記されていませんし、神さまが何をみこころによって選ばれるかは、私たちに計り知れません。しかし、神さまが、外側でなく内面を見られるお方であることは間違いありません(1サムエル16:7)。旧約のささげものに関する律法は、完全で傷のない動物がささげられるべきとされています(レビ1:3、22:20～22など)。ダビデも「いいえ、私はどうしても、代金を払って、あなたから買いたいのです。費用もかけずに、私の神、主に、全焼のいけにえをささげたくありません。」(2サムエル24:24)と礼拝に対する態度を示しています。</p>
□ポイント2 神さまは、素直な心を喜ばれます	<p>(5b～8節)カインは、神さまが自分のささげものに目を留めてくださらなかったで、「ひどく怒り」ました。「顔をふせた」カインの態度から、感情的に非常に怒り、心に不満をもっているのが分かります。そこで、神さまは、「あなたが正しく行なったのであれば、受け入れられる」と語りかけられました。この原文は解釈が難解ですが、①心にやましいことがなければ、神さまの前にしっかり顔を上げられるはず、②もし前の行動が正しくなかったとしても、いま悔い改めればすぐにでも受け入れられる、ということでしょう。自分が親や先生の前に顔を上げられないときのことを考えてみましょう。</p>

もし、罪の心のままでいると、それを狙っている悪い誘惑に捕らえられ、さらに大きな罪を犯してしまい、心はどんどん腐っていってしまいます(罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている)。だから誘惑に負けて悪に傾いていくのではなく、人は自分の心をコントロールしなければなりません(あなたは、それを治めるべきである)。私たちには、助け主なる聖霊さまがともにいてくださり、神さまに喜ばれる方を選択することができます。

しかし、恐ろしいことに…カインはだれもない野原にアベルを誘い出し、殺してしまいました。私たちも、小さなきっかけから、心に怒りを抱いてしまうことがあります。それを、そのままにしていると、殺人という大きな罪に発展してしまう可能性があるのです。

☞ 兄弟を殺すなんて、本当に恐ろしいことです。8節に「弟アベル」という表現が2度も使われています。兄弟の結びつきは、当時の方が、今の私たちのそれより強かったかもしれません。ニュースやドラマで殺人ということばを聞きなれているかもしれません。しかしメッセンジャーはこの恐ろしい罪のシーンを軽々しい口調にならないよう、緊張感をもって語りましょう。

□ポイント3 神さまは、あわれみ深く待っておられます

(9～15節)神さまはカインに「弟アベルはどこにいるのか?」ときかれまました。アベルが何をしたのか、今どこにいるのか、全てご存知だったはずです。これは、カインが「じつは…」と罪を自分から告白して、改心できるように、神さまがチャンスを与えられたのではないのでしょうか。しかし、カインは「知りません」と明らかかなウソを言いました。それどころか、「私は弟の番人なのでしょうか?」と非常に無礼な警句をもって神さまに応えました。神さまはカインを地上をさまよい歩くさすらい人にされました。罪を告白するチャンスに背を向けてばかりいると、私たちも神さまから遠くはなれてしまいます。心に悪い思いが浮かんだら、すぐに神さまの前にもって行くべきです。罪を犯してしまったら、素直に悔い改めることが大切です。神さまは、必ずゆるしてくださいませ。現にカインでさえも、見捨てられることはありませんでした。神さまは、カインをあわれんで、「ひとつのしるし」を与えて、殺人から守られるようにしてくださいました。

☞ 先週に引き続き、私たちの罪は、キリストの十字架によってゆるされたことを語りましょう。

☞ どんな「しるし」でカインを守られたかは明確にはわかりません。

暗唱聖句を読み上げます

いつも素直に悔い改めましょう。砕かれた魂(素直にごめんなさいと言える心)をささげましょう。神さまはそれを喜ばれます。神さまは私たちの内側を見られます。

□結論 どんな罪人をも神さまは、待っておられます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

神さまは、罪を犯す人を見捨てるのではなく、素直に罪を悔い改めるなら、喜んでゆるしてくださるお方です。イエスさまを信じているあなたは救われていますが、まだ罪を犯してしまうことがあります。毎日かならずお祈りの時間をとり、イエスさまにあなたの心を見てもらいましょう。罪が示されたら、そのとき素直な気持ちで悔い改めましょう。神さまはそのような生活をとっても喜ばれるんだよ。小さな罪を放っておくと、殺人のような大きな罪になる恐れがあるよ。

教師ノート

週課	第一年 第七課 第三週
単元	創世記・2
テーマ	忠実にしたがう
タイトル	ノアの箱舟・1－ひとりの正しい人－
テキスト	創世記 6:1-7:5
参照箇所	マタイ 24:37-25:23、ルカ 16:10
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	創世記 6:9
AG 日曜学校教案参照箇所	小上 1 巻 1 題 4 課、小下 2 巻 1 題 5 課、幼 1 巻 2 題 4 課

メモ(情報・例話など)

今週から2週にわたって、テキストは「ノアの箱舟」についてです。今週は、洪水そのものではなく、「主のところにかなっていた」という、ノアの正しい生き方についてのメッセージです。「神さまは、たとえひとりでも、みことばに従って生きる人がいれば、その人に目を留めて、祝福してくださる」ということを伝えます。この日本において、聞き手である子どもたちは、クラスの中にたったひとりのクリスチャンである可能性が高いのではないのでしょうか。そのような子どもたちが、ノアのように神さまとともに歩み、たとえひとりでも、神さまに喜ばれる生活をしたいと決心できるように、導きましょう。

注)ノアは正しい人だったので、洪水から守られました。しかし、このことが「行いによる救い」という勘違いを招かないようにしましょう。

□導入

興味を起す質問をしましょう。

例: 正しくない分かっていることでも、ついつい「みんなもやってるし、まあイヤか」と流されてしまうことはありませんか?ひとりだけ正しいことをするのは、かっこ悪いとか、はずかしいとか、思ってしまうことはありませんか?今日は、当時の世の中で、たったひとり「正しい人」と言われたノアさんのお話をききます。ノアさんはどんな人だったのでしょうか?神さまは、ノアさんにどんなことをしてくれましたか?

📖ノアの箱舟については、絵本や紙芝居、ビデオが多く販売されています。視覚教材を積極的に活用しましょう。小学科下級2巻25～26ページにも、ストーリーの簡潔な説明があります。

□ポイント1 神さまは地上に罪が増え広がったことを悲しまれました

(6章5～7節)地上に悪が増大してきたと書いてあります。人々は根源的・本質的に悪くなっていました…①人の行動の発端であるところの「心の中」が悪くなっていました②みな、いつも悪いことだけ考えるようになりました。神さまはこのような人々をごらんになって「悔やみ、心を痛められ」ました。これは、非常に強い表現で書かれています。そこで神さまは、人を地上から消し去ることを決心されました。神さまは罪を嫌い、それに対して正しい裁きをされるお方です。

📖創世記1章で、神さまは創造された天地万物を「非常によかった」と言われました。しかしここでは地上をご覧になって、本質的に悪に傾いていると言われました。創世記の著者も意識してこの2箇所を対比したと思われます。ただし、地上が悪くなったのは、神さまの天地創造に不備・欠陥があったからではありません。自由意志を与えられた人間が、それを悪い方に用いた結果です。

□ポイント2 神さまはひとりの正しい人(ノア)に目を留められました

そんな人々の中にも、神さまからごらんになって「正しい人」がいました。ノアです。ノアは神さまの基準にそって義なる者であり、完全で責められるところのない人でした。またノアは神さまを愛し、神さまとともに歩む人でした。

☞「主の心にかなう」と直接表現される人は、聖書の登場人物でも非常にまれで、ノアの他にはモーセくらいでしょう(出エジプト33:17)。また、神さまとともに歩んだと書かれているのは、ノアの他にはエノクだけです。神さまの心にかない、正しく、神さまとともに歩むことは、すべての人の目指すところですが、ノアは実際にその域に到達した数少ない人のひとりなのです。

神さまは、だれもが悪いことばかりする時代の中で、たったひとりでも神さまに従うノアに目を留められました。ノアに箱舟を作るように言われ、ノアの家族も洪水から救われることを約束してくださいました。神さまは、たったひとり正しい人を見落としたりしません。また、正しい人も悪い人も区別なく乱暴な裁きをするようなお方でもありません。神さまは、公正にひとりひとりの生き方を見て下さっているのです。

□ポイント3 ノアは神さまのことばに忠実に従う人でした

☞ノアがどんな「正しい」生き方をしたのか、箱舟を建造するようすから探っていきましょう。神さまは、ノアのような人を喜ばれ、守ってくださるのです。

1. ノアは小さいことでも神さまのことばに忠実に行なう人でした。神さまは箱舟の作り方やそれに乗り込む動物のことを詳しく指示されました。14～16節は材料・構造・大きさについての指示です。18～20節は、箱舟に乗り込む人と動物についてです。21節には食事について書かれています。ノアは「すべて神が命じられたとおりに」忠実に箱舟を造りました。他の人なら、自分の考えで、天窓の大きさを変えるなどしてしまったかもしれません。

2. ノアは困難があっても最後まで従いとおす人でした(ヘブル11:7参照)。また、この箱舟建造の作業をしている間、世間の人々が、「そんな洪水あるわけがない」「こんな陸で舟を作るなんて」などと、ノアを嘲笑したであろうということが容易に想像できます。たとえノアが、「洪水が起こるから、あなたも一緒に箱舟に乗ろう」と言っても、だれも信じなかったのかもしれませんが。そんな大雨が降ることや、箱舟で助かるということ、あなただったら信じられたでしょうか？箱舟を造るのに何年かかったか分かりませんが、どんなことがあっても、ノアは神さまのことばに従いとおしたのです。たったひとりでも、ノアは神さまに従う人だったのです。

☆1キュビトは約44センチです。箱舟の大きさや、入っている動物のようすを、こどもたちと一緒に考えよう。また、箱舟を造るノアを、周りの人がどう思ったか、自由に想像してみよう。

□結論 神さまは、ノアのようにみことばに忠実に従って生きる人をよろこばれます

暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

あなたは、今までに神さまからどんなことを言われましたか？「互いに愛し合いなさい」、「神さまを心から賛美しましょう」など、あなたの心に残っている、神さまの教えがあるはずです。そのみことばに、あなたはいつも従っているのでしょうか？わたしたちは、みことばに忠実に従う正しい人になりたいと思っても、つつい「みんなもやってるから・・・」とラクな方、悪い方に流されてしまいます。今日、もう一度、みことばに従う決心をしましょう。

また、あなたは普段、どんな状況に流されやすいのかも、考えてみましょう。(クラスみんなが騒いでいると自分も調子に乗ってしまう、みんなにいじめられているお友だちがいても見て見ぬふりをする、礼拝で他のお友だちが歌わない時は自分も賛美しない・・・など)。神さまはノアのようにひとりでも正しい人がいることを喜ばれるのです。神さまとともに歩む人になろう！あなたは神さまに守られ祝福されます。

教師ノート

週課 第一年 第七課 第四週

単元 創世記・2

テーマ 神の約束

タイトル ノアの箱舟・2－約束の虹－

テキスト 創世記 7:6-9:17

参照箇所 ヨハネ 3:16

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)
創世記 9:13

AG 日曜学校教案参照箇所

小上 1 巻 1 題 4 課、小下 2 巻 1 題 6 課

メモ(情報・例話など)

先週に引き続いて、ノアの箱舟のメッセージです。神さまがとうとう洪水によってノアの家族以外の人類を滅ぼされる場面です。しかしテーマは、洪水そのものではなく、もう洪水で人類を滅ぼすことはしないという、「神さまの愛の約束」です。神さまは、罪を犯す人間を滅ぼさず、みんなが救われるように待っています。ノアが箱舟で救われたのと同じように、イエスさまを信じて従う人は、救われるということ、子どもたちに伝えましょう。

ノアの箱舟の記事については、まだ不明な点が多くあります。子どもたちも、純粋な疑問を抱く点があると予想されます。例えば、「箱舟の中で、動物はどんな状態だったの?」「海の中にいた生物はどうなったの?」など。もし、メッセンジャーが考古学の推論の1つを紹介することができれば、それも良いかも知れません。しかし、聖書に明確な記述がないことに関しては、「それはわからないんだよ」、「あなたは思う?」、「天国でノアさんに聞くのが楽しみだね」と一緒に考えるのも真実な方法です。どちらの方法にしても、子どもたちが、聖書っておもしろい、もっと調べてみたいと、興味を持つように導きたいものです。

□導入

興味を起す質問をしましょう

例:みんなは、大切な約束をしたとき、何か「しるし」をつくったり、記念の品物を買ったりしたことがありますか?それはどんなモノですか(キーホルダーなど?)。それを見るたびに約束を思い出すことができますね。神さまが私たちにしてくださった大切な約束とは何でしょう?それを忘れないためのしるしとは何でしょうか?

☞必要であれば、簡潔に先週のメッセージの復習をしましょう。7章の1～5節を読むことで、先週の内容をまとめて振り返ることができます。ノアの箱舟については、絵本や紙芝居、ビデオが多く販売されています。視覚教材を積極的に活用しましょう。小学科下級2巻25～26、29～30ページにも、ストーリーの簡潔な説明があります。

□ポイント1 神さまはとうとう洪水によってノアの家族以外の人類を滅ぼされました

小学科下級2巻p29～30ページ参照。ノアが600歳の時とうとう洪水が起こりました。その直前にノアの家族と動物たちが箱舟に乗り込みました。そして神さまは箱舟の戸を閉じられました。天の水門が開かれ、大雨が40日間降り続けました。水は150日間増え続け、ノアの箱舟に乗っている人と動物以外、地上の生物は全て死に絶えました(7:1～24)。

その後、水は減り始め、箱舟はアララテ山の上にとどまりました。ハトを放って土地の水が乾くのを確かめました。洪水の初めから、水が乾ききるまで、1年10日間でした。

☞ アララテ：海拔1830メートルの山の多い高原。トルコの北東からペルシャに広がっている。アララテと呼ばれるひとつの峰は高さ5410メートルです。小学科下級2巻p28

□ポイント2 神さまは、もう洪水で人類を滅ぼすことはしないと約束されました

箱舟から出たノアは、祭壇を築いていけにえをささげ、神さまを礼拝しました。きよい動物は7つがいくつか箱舟に入ったので(7:2)、その内からいけにえがささげられたものと思われます。まだ献げものの制度は確立していませんでしたが、感謝、賛美、贖い、献身のための献げものだったと考えます。神さまはそのかおりをかいで(ノアの礼拝する心を見て)、もうこの地をのろうことはしないと約束してくださいました。神さまは、もう洪水で人類を滅ぼすことはしないとこの契約のしるしとして、虹を立てると言われました。

☞ 「いけにえ」罪をゆるしてもらうために、神さまにささげた動物のことです。「祭壇」とは、いけにえを献げる場所のこと。ノアは石を積んで造ったのでしょう。全焼のいけにえについてはレビ1章、きよい動物については、レビ11と申命記14参照。

□ポイント3 神さまは罪人が滅びることではなく、イエスさまを信じて救われることを願っておられます

神さまは、罪人を滅ぼすようなことはしないと約束してくださいました。現在も、神さまはその約束どおり、悪い思いばかりをもつ人間をあわれみ、罪が増え広がる地を忍耐して支えてくださっているのです。そればかりでなく、神さまはそのひとり子をこの世に遣わしてください、その命の代価ですべての罪人を救ってくださったのです。私たちは、ただ神さまのあわれみによって、滅ぼされることなく、救いを得ることができたのです。同様に、神さまは、まだイエスさまを信じていない人が、ひとりでも多く、世の終わりまでに救われて欲しいと願って待ってくださっているのです。クリスチャンは、恵みによって生かされていることを、忘れないでいつも感謝しましょう。そして、神さまと同じ思で、まだ救われていないお友だちや家族を愛し、その人たちがイエスさまを信じるように祈り続けましょう。

□結論 神さまは、もう洪水で罪を犯す人間を滅ぼすことはしないと虹をかけて約束してくださいました

暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

あなたは何でも自分の力でやっていると思いませんか？またモノやお金など目に見えるものによって生きていると思いませんか？罪を犯す私たち人間は、いつ神さまに滅ぼされても仕方ない存在…でも神さまが恵みによって私たちを生かしてくださっているのです。私たちが生きていられるのは、神さまの愛のおかげなのです。

今の時代も、罪がますます増え広がっていることを、神さまは悲しんでおられます。しかし神さまは、私たちが救われるように私たちの罪の身代わりとしてイエスさまを十字架にかけてくださいました。神さまの愛の約束のとおりあなたが救われたことを感謝しよう！また、神さまはあなたの家族やお友だちも救われるように待ってくださっていることを信じよう！

教師ノート

週課	第一年 第七課 第五週
単元	創世記・2
テーマ	神をおそれる
タイトル	バベルの塔
テキスト	創世記 11:1-9
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) Iコリント 10:31
AG 日曜学校教案参照箇所	小下 2 巻 1 題 3 課、小上 3 巻 3 題 2 課、中 2 巻 1 題 1 課、中 3 巻 4 題 5 課
メモ(情報・例話など)	<p>人間は自分たちが力をあわせれば、神さまよりもすごいんだ、ということを示すために、塔を建てようしました。しかし神さまはそのような人間の傲慢な思いを喜ばれません。神さまは、人間のことばを混乱させ、互いに通じないようにされました。私たち造られたものは、自分たちのすごさではなく、神さまのすばらしさをあらわすために生きるべきなのです。私たちは、神さまに守られて生きているのです。私たちの能力は、すべて神さまから与えられた賜物なのです。神さまをおそれ、神さまのすばらしさをあらわす人になると決心できるように導きましょう。</p>
□導入	<p>興味を起こす質問をしましょう</p> <p>例:世界には、どんな種類のことばがあるか知っていますか?もし、世界にひとつのことばしかなかったら、今よりもっと世界中の人が仲良くできると思いますか?世界中の人で自由に話しができたら、協力してどんなことをするでしょうか?良いことをするでしょうか?それとも…?</p>
□ポイント1 人間は名をあげようとしてバベルの塔を建て始めました	<p>(1~4節)洪水の後、「生めよ。増えよ。地に満ちよ。」と言われたように、ノアの子孫たちが増えていきました。また特に建築の技術が発展しました。しかし、人々はそれを神さまに喜ばれる方向に用いませんでした。ノアの息子たちから出た子孫も、「心に思い計ること」は悪だったのです。自らが名を上げるために、神さまの地位を奪うべく、高い塔を建て始めたのです。例え、いずれにせよ人間の力では神の領域に達することは到底不可能だったとしても、その動機の部分はおそろしいものです。</p> <ul style="list-style-type: none">☞名をあげる:威信を示すのが目的(実用聖書注解・いのちのことば社より)。人間は「自分たちがチカラと技術を合わせれば、神さまよりもすごいんだということを示そうとした」と説明すれば子どもたちにも分かりやすいでしょう。☞テキストの舞台はメソポタミアと考えられ、そこはパレスチナのように建築に使う石が多くありませんでした。代わりにレンガを焼く技術が発展し、それを接着するために瀝青(天然アスファルト)が用いられました。☞10章で、民族や地方によって、国語があったことがわかります。これは、「全地はひとつのことば」であったという11章1節と矛盾するものではありません。11章の出来事は10章の前に起こったのでしょう。

□ポイント2 神さまは、人間のことばを混乱させ、互いに通じないようにされました

神さまは、人間のおごり高ぶる思いをよろこばれませんでした。人間が神さまよりもすごいことを示そうというたくらみは、結局、それを2度と不可能にする刑罰を導きました。神さまはことばを混乱させ、互いに通じないようにされました。そして全地に人々をバラバラに散らされました。ことばが通じないと、共同生活と技術の協力は妨げられます。理解できない人を信頼して一緒に働くことは難しいことです。高い建物を建てることや、人間が一致協力することは、それ自体悪いことではありません。悪いのは、神さまに造られ・生かされている恵みを忘れ、自分たちが偉いんだ！という高ぶった思いです。

☞ 高慢: 思い上がって、人をあなどること(広辞苑)。人間が自分の力にうぬぼれて、神さまを軽く見るという思い違いです。

☆みんなで考えよう。突然、お互いにことばが通じなくなり、全地に散らされた人たちの気持ちを考えてみよう。同時に、神さまの気持ちも考えよう。人間を造ったのは何のためだったかな？6月の暗唱聖句(イザヤ43:7)を思い出してください。人間は神さまの栄光をあらわすために造られたのに、「俺たちは神さまより偉いんだよお～」という、思いをもつようになりました。そのような反抗的な態度をごらんになって、神さまはどんな気持ちになっただろう？

(以下の2点については、このメッセージでは詳しく触れていませんが、重要な点ですので、導かれる方は準備をして語りましょう。①ことばを混乱させ、人を全地に散らされたのは、高慢な人間に対する刑罰でしたが、そのことによって、「地に満ちよ。」という神さまのみこころが成されました。②ペンテコステの日に、聖霊の恵みによって、ことばの違いを超える一致が与えられました。)

□ポイント3 自分のすごさを誇るのではなく、神さまのすばらしさをあらわす人になろう！

暗唱聖句を読み上げます

人間は自分たちのすごさをあらわすのではなく、神さまのすばらしさをあらわすために生きるべきなのです。神さまが、そのために私たちを造り、生かしてくださっているのですから。

神さまは、神さまをおそれる人に恵みを与えてくださいます。それは聖書を読めば明らかです(ノア・アブラハム・ヨセフ・モーセ・ダビデ・ダニエル・・・など)。また以下の聖句は必ず読んでください【創22:12、申6:24、詩25:12,14、33:18、34:9、103:11-17、128:1-4、147:11、箴8:13、マラキ4:2】。

私たちは、神さまに守られて生きているのです。私たちの能力は、すべて神さまから与えられた賜物なのです。そのことを感謝して、神さまのすばらしさをあらわす人になろう！

□結論 神さまは、自分たちのすごさを示そうとして塔を建てた人間のおごり高ぶる心を、よろこばれませんでした

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

神さまがあなた祈りに応えてあなたのサッカーチームを試合で勝たせてくださっても、あなたが「ボクのおかげで勝ったんだ」と言ってしまったら神さまは悲しいでしょう。あなたは、どんなことで、「自分はすごい！」と自信をもっていますか？それは、本当にあなたのチカラですか？元々は神さまから与えられたものではありませんか？あなたに、すばらしい賜物を与えてくださっている神さまに感謝しよう！

私たちに与えられた能力を、神さまのすばらしさをあらわすために使おう！人間の技術(インターネットや、機械など)も、神さまのすばらしさをあらわすために使おう！

あなたは「キミってすごいね～」と言われるのと、「イエスさまってすごいね～」といわれるのではどちらがうれしいですか？神さまのすばらしさをあらわす人になろう！